

5. ミラノ市役所



<ミラノ市長と>

<基本データ>

・ミラノ市

人口は、イタリア全土では首都ローマに次ぎ第2位。1982年には160万人を超える人口であったが、その後のドーナツ化現象で長く人口減少が続いた。ここ数年はおよそ130万人前後で落ち着いている。しかし、北部イタリアにおいては最大の都市であり、商業・工業・金融の中心。観光地としても名高い。

主な産業としては、ミラノ・コレクションなどで知られるように古くから服飾・繊維産業などファッション関連の産業が盛んな土地柄であるが、近年は航空産業や自動車産業、精密機器工業なども発達しておりイタリア最大級の経済地域を形成している。近年は国際会議やイベントの誘致にも注力してきた。

調査目的

ミラノ市内で開催される国際会議、国際イベント等のMICE誘致策について、行政としての取組状況、民間事業者との連携等の調査を行う。

調査結果

ミラノは、ニューヨークについて領事館の多い街であり、その国際色をいかに発揮し、国際会議等の誘致に関しミラノ市長の紹介状も添えるなどの取組を行い官民一体でMICE誘致に努めている。



<ミラノ市長>

2015年万国博覧会の開催も、ミラノ市にとって大きなチャンスとなる。MICEはもとより、観光やショッピング、滞在するホテルにも優れた街である。こうしたミラノ市のもつ魅力のPRが功を奏し、10～15年前まではバルセロナやフランクフルト、ウィーンといった観光地を中心に開かれてきた医学会や薬学会がミラノで開催されるという成果につながった。



<ミラノ市長から説明を受ける>

また、ホテルなどの宿泊施設での割引制度をつける等、パッケージでMICE参加者に宣伝するなど官民連携によるMICE誘致活動を展開してきた。

新しい会議場施設は、間仕切りにより用途の幅を広げるなど使いやすさが売り物とのことであった。

ミラノ市でのMICE開催の大きな特典は、何といてもミラノの持つ街としての魅力にある。ドゥオモを中心としたショッピング街や、歴史的・文化的な遺跡も数多く残されている。こうした資源が誘致活動においても大きなアドバンテージとなっているようである。

現在、イタリア人1人が一日で使うお金は116ユーロだが、例えばアラブ人は平均400ユーロを使用している。経済効果も高いMICE誘致について、今後の目標は、一年間にミラノを訪れる約600万人の観光客の一割、60万人を国際会議等による訪問としていきたいようだ。そして、そうしたMICE参加者を後々には個人の観光客にまでつなげていく狙いがあるとのことであった。



<ミラノ市長と質問、意見交換を行う>

最後に、MICE誘致成功の秘訣を担当者からご示唆いただいた。当初は施設のグレードや機能が決定要因と考え、国際機関の主権者に対してもその点を強調した売り込みを図ってきたが、それが間違いであることに気付いた。主催者が開催地を決める理由は、空港からのアクセス、交通状況、宿泊施設状況、食事場所、観光スポット、文化施設、ホスピタリティー、街の治安状況等が重要であり、さらに最も大切なことは、利用者や施設利用の担当者、利用団体からの希望や要望の把握などのボトムアップということである。東京におけるMICE誘致戦略においても、こうした観点を踏まえていくことが重要であると痛感した。